

寄り道をしよう。

茅ヶ崎のまちを東西に串刺ししているのが
鉄砲通りという道路です。

その幹に南北に5つのストリートが交わっています。
茅ヶ崎の道は決して広くなく、路地が入り組んでいる。

その路地めぐりが楽しいという人も多くいます。
歩く速度は、新しい発見に満ちているのです。
おもむきある木造の建物に目を奪われながら歩いていると、
ふいに開けて水平線が見える。

部活の中学生たちが走っていくのを眺めているうち
パンを焼くいいにおいに誘われ、
熱いコーヒーが飲みたくなって小さな店の扉を開ける。

茅ヶ崎の道は、寄り道がよく似合います。



貿易商と桜並木 ラチエン通り

忘れずにいつかどこかで会える
思い出にやさしく酔える
あなたからいつもその気にさせる
よその誰よりも

ほかに誰かいるの
そうね移り気になりそう
だめシスター
胸を焦がす言葉さえ
わからずにただ泣くわ

『ラチエン通りのシスター』
作詞作曲 桑田佳祐
唄 サザンオールスターズ

明治35年(1902)、炭酸水販売会社の社員として一人のドイツ人が来日しました。ルドルフ・ラチエン(1881-1947)。東京に住み、メルセデス・ベンツをはじめて日本に輸入するなどドイツ製品輸入業「ラチエン商会」を営みます。同時にポリドール・レコードの日本代表も務めるなど積極的な活動を繰り広げ、東京の自宅以外に藤沢市鶴沼に別荘を持ちますが、関東大震災で崩壊。すっかり日本ファン、湘南ファンになったドイツの貿易商は、こんどは茅ヶ崎におよそ15,000坪の土地を求め、別荘を建てました。昭和11年(1936)のことです。ラチエンがよく散策した邸宅沿いの道

をラチエン通りと呼ぶようになりました。桜が大好きだったラチエンは海岸へと向かうその道をずらりと桜並木にしました。だから、ラチエン通りは桜通りとも呼ばれます。

武士の往来 鉄砲通り

享保13年(1728)、徳川吉宗が主導した改革「享保の改革」のひとつとして幕府は茅ヶ崎の南湖から藤沢の片瀬に至る海岸線に大砲の演習場(相州砲術訓練場)を作りました。海岸防備と、時代の

先端兵器である大砲の扱い方や射撃訓練を目的としたものです。この大砲を運んで鉄砲隊の武士たちが往来した道が、いつのころからか鉄砲道と呼ばれるようになったという通説があります。これがいまの鉄砲通り。鉄砲場は、大砲を撃っているときはもちろん立ち入り禁止だったでしょうが、ふだんは漁師が浜へ行くため横断するのはかまわなかったろうし、鉄砲道も鉄砲隊の往来がないときは東西を結ぶ生活道路として親しまれていたことでしょう。

